

PRIMERGY TX200FT S2

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本紙をご覧になり、PRIMERGYを使用する準備を行ってください。

本紙に記載されていない項目や詳細な手順については、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

■本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、PRIMERGYドキュメント&ツールCDの以下から参照できます。

【CD-ROM ドライブ】¥MANUAL¥INDEX.PDF

各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader® または、Adobe® Reader® で表示できます。Acrobat® Reader® は、バージョン 4.0 以降をご利用ください。

なお、Acrobat® Reader® 5.0 は、PRIMERGYドキュメント&ツールCDの以下からインストールできます。

【CD-ROM ドライブ】¥MANUAL¥Setup¥Viewers¥Acrobat5¥ar500jpn.exe

1 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧になり、梱包物／添付品が揃っているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までご連絡ください。

2 『安全上のご注意』を確認する

本製品をお使いになる前に、添付の『安全上のご注意』を必ずご確認ください。

また、接続や内蔵オプションの取り付け時など、本製品をセットアップする際にも事前に内容をご確認ください。

3 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入した場合は、OSをインストールする前に取り付けます。

■内蔵オプション取り付け時の留意事項

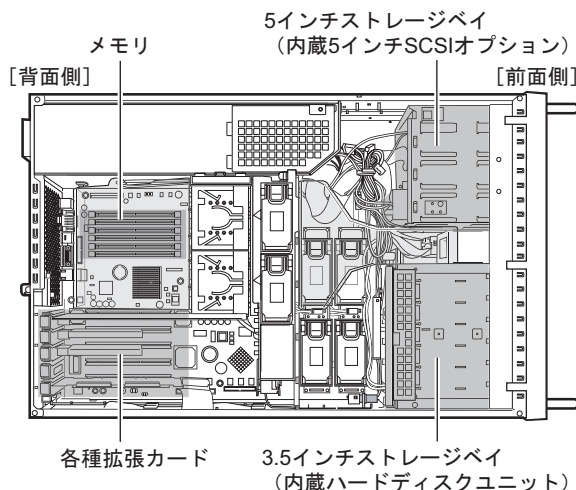
実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、次のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

ユーザーズガイド ▶▶ 「第5章 内蔵オプションの取り付け」

オプション取説 ▶▶ オプション装置に添付のマニュアル

メモリ、ハードディスクを搭載する場合は、両方の筐体に、必ず同一の容量のものを取り付けてください。

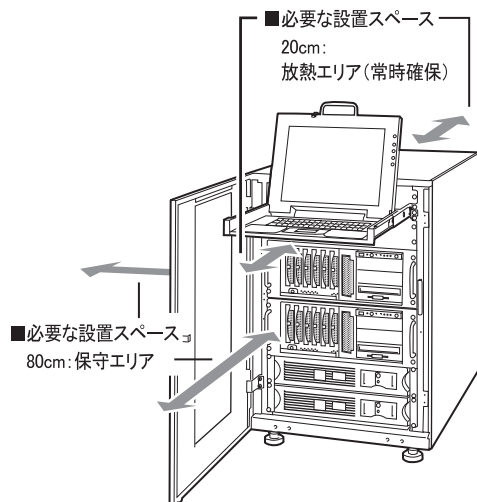
■内蔵オプションの種類と取り付け位置



内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

4 設置場所を確認して設置する

■設置場所の条件



■本サーバを設置するときは、次の場所は避けてください。

- ・湿気やほこり、油煙の多い場所
- ・通気性の悪い場所
- ・火気のある場所
- ・周囲温度が10～35℃をはずれる場所
- ・湿度が20～80%をはずれる場所
- ・電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- ・テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- ・水のかかる場所
- ・直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- ・腐食性ガスが発生する場所
- ・塩害地域
- ・振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

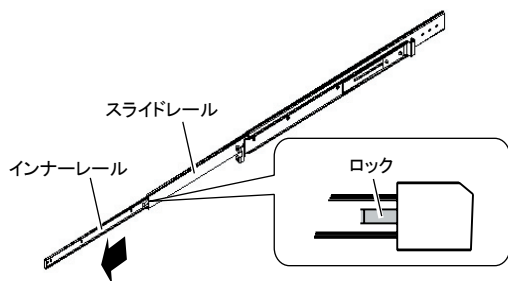
2つの筐体をラックに搭載する際は、上から FT1、FT2 の順に搭載してください。FT1 と FT2 の識別は、本体正面左上のラベルで確認します。

■サーバ本体のラックへの搭載

サーバ本体をラックに搭載したり、ラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。

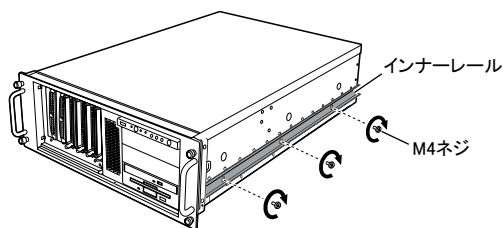
1 スライドレールからインナーレールを取り外します。

ロックを押しながらインナーレールを引き抜いてください。



2 サーバ本体の左右に、インナーレールを取り付けます。

インナーレールの左右 3箇所を、M4 ネジで固定してください。



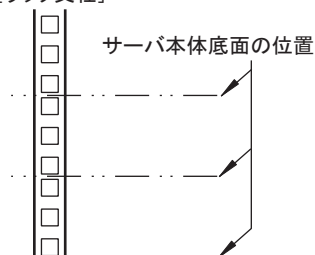
※反対側も同様に固定してください。

3 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

4 スライドレールと、ラックナットの取り付け位置を決めます。

ラック支柱の穴の間隔が狭い位置（下図を参照）のいずれかに、サーバの底面がくるように合わせます。

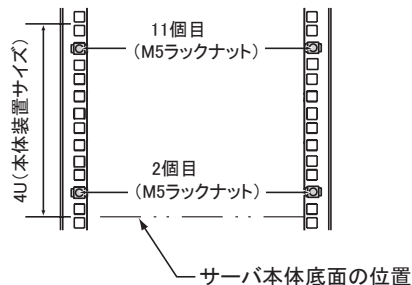
[ラック支柱]



5 M5 ラックナットを取り付けます。

1 台の筐体につき 4U 使用します。サーバ本体を取り付ける位置の下から 2 個目と 11 個目の位置に、ラック支柱の内側からツメを引っ掛けて、取り付けてください。

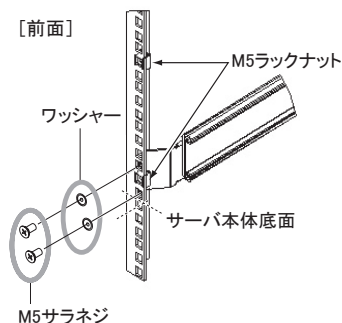
[ラック支柱前面]



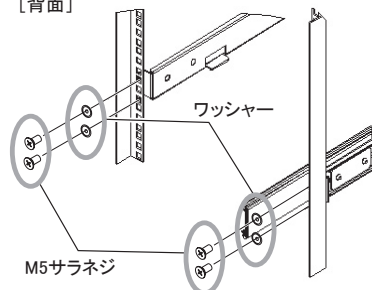
6 レールをラックに取り付けます。

スライドレールは、サーバ本体を取り付ける位置の下から 1 個目と 3 個目の位置に、M5 サラネジとワッシャーで取り付けてください。

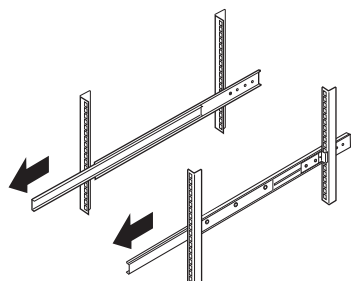
[前面]



[背面]



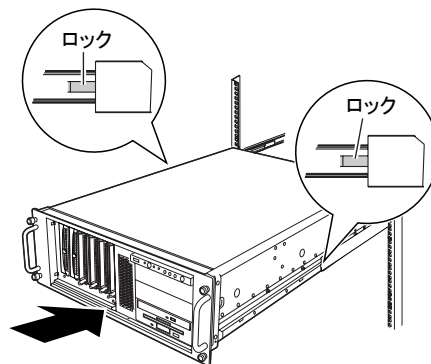
7 スライドレールを、「カチッ」と音がるまで伸ばします。



8 サーバ本体をラックに取り付けます。

スライドレールの溝と、サーバ本体に取り付けたインナーレールの溝を合わせ、サーバ本体を後方にスライドさせます。

左右のスライドレールのロックを押しながら、さらに後方にスライドさせて、ラックに搭載してください。

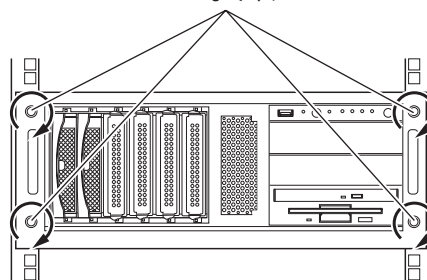


サーバ本体をスライドさせる場合や、元に戻す場合は、充分注意してください。指や衣服が挟まれて、けがをするおそれがあります。

9 サーバ本体とラックを固定します。

M5 つまみネジ 4 本で固定してください。

M5 つまみネジ



10 2 台目の筐体も同様にラックへ搭載します。

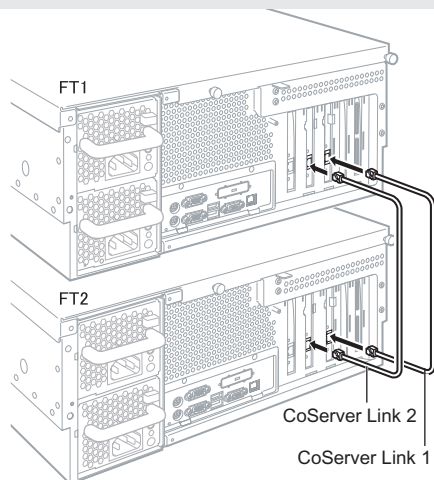
ラックにサーバおよび周辺装置が搭載されていない場合には、ラックに添付のブランクパネルを搭載してください。

5 周辺装置を接続する

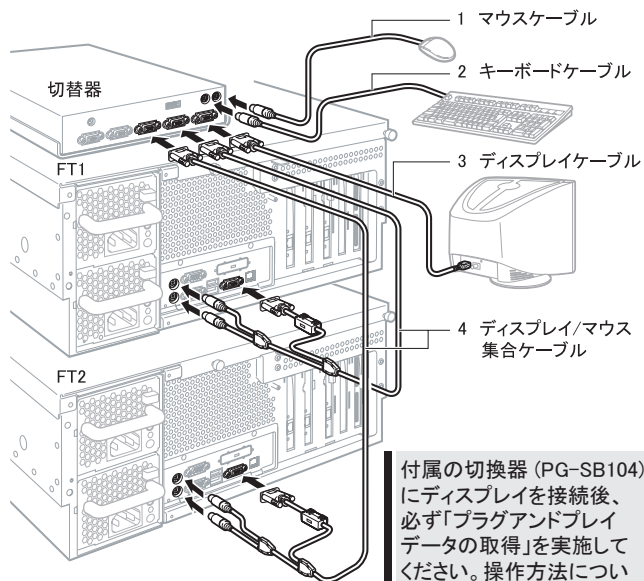
サーバ本体に、キーボードやマウスなどの周辺装置をそれぞれ次の順番で接続します。

● LAN ケーブルの接続

- ・ケーブルが交差しないように、同じカードの差し込み口に接続してください。
- ・業務用LAN、監視用LANはまだ接続しないでください。

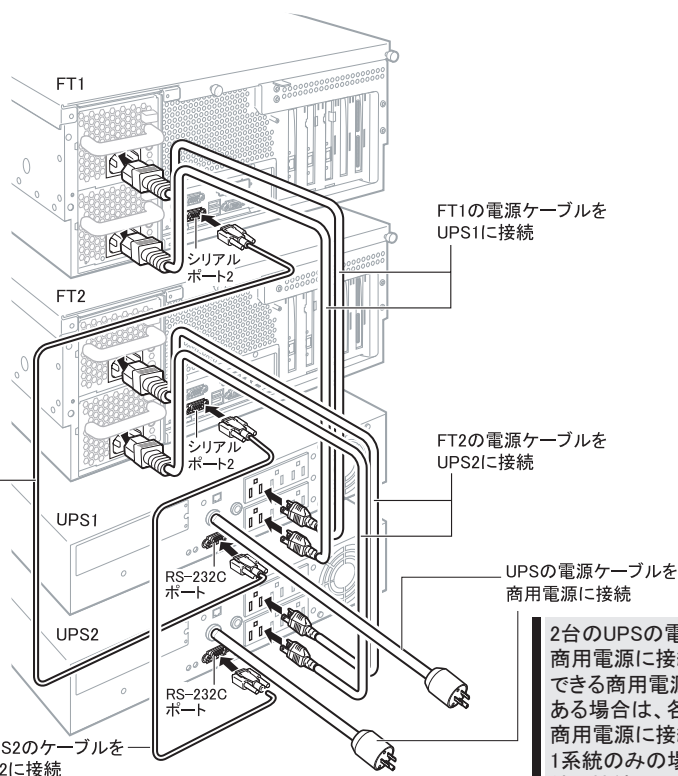


● ディスプレイ、キーボード、マウスの接続



付属の切替器 (PG-SB104) にディスプレイを接続後、必ず「プラグアンドプレイデータの取得」を実施してください。操作方法については、切替器のマニュアルを参照してください。

● 電源ケーブルの接続 (UPS を使用する場合)



UPS1のケーブルをFT1に接続

UPS1のRS-232Cポートと、FT1のシリアルポート2を、専用ケーブル(940-0024C)で接続します。同様に、UPS2とFT2も専用ケーブルで接続してください。

FT1の電源ケーブルをUPS1に接続

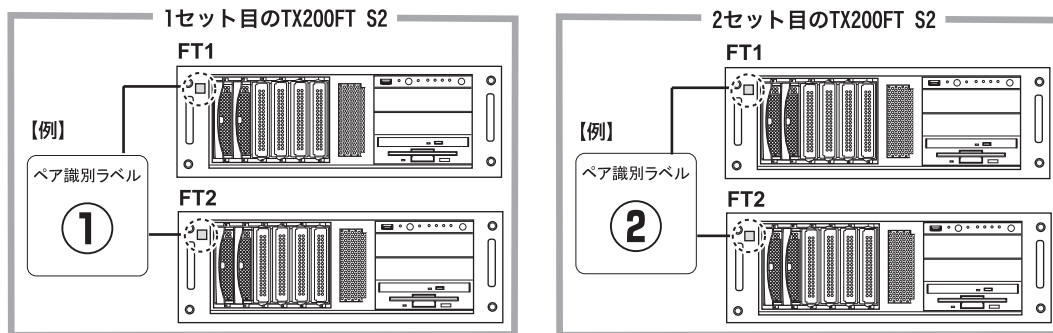
FT2の電源ケーブルをUPS2に接続

UPSの電源ケーブルを商用電源に接続

2台のUPSの電源ケーブルを、商用電源に接続します。使用できる商用電源が2系統以上ある場合は、各UPSを別々の商用電源に接続してください。1系統のみの場合は、同一系統に接続してください。

■ ペア識別ラベルへの記入

サポート窓口にお問い合わせの際に、FT1/FT2のペアの型名・号機の情報が必要となります。本体前面のペア識別ラベルに、FT1、FT2がペアであることがわかるように必ず記入してください。



6 OS 開封前に必要な情報を決める

OSの開封処理を行う前に、必要となる以下の情報を決めておきます。

- ・ 利用者情報（ユーザおよびパスワード）
- ・ オーナー情報
- ・ 自動シャットダウン時の待ち合わせ時間（UPS 使用時のみ）
- ・ ネットワーク構成値

以下のシート内の太枠部分の値を決定し、記入してください。
また、各情報値記入後は、本紙を大切に保管しておいてください。

■ 利用者情報

項目名		FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
FTvirtual Server のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator	
	パスワード*1		
CoServer のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator	
	パスワード*1、2		
UPS サービスのシステム管理者*3	ユーザアカウント		
	パスワード		
PowerChute BusinessEdition 用管理ユーザ*4	ユーザアカウント		
	パスワード		
GAM (RAID 管理) 用ユーザ	ユーザアカウント	gamroot	
	パスワード*1、2		

*1：パスワードは空にせず、必ず設定してください。

*2：CoServer1 および CoServer2 で異なるパスワードに設定できますが、各種設定手順が煩雑になることを避けるため、CoServer1 および CoServer2 で同じパスワードにすることを推奨します。

*3：このユーザは PowerChute BusinessEdition 上で設定するもので、Windows のユーザアカウントとは関係ありません。

*4：UPS サービスのログオン用アカウントです。

■ オーナー情報

項目名	FTvirtual Server	FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
名前			
組織名			

■ 自動シャットダウン時の待ち合わせ時間

この設定は UPS を使用する場合に必要です。OS により、各設定値については、『ユーザーズガイド』の「3.4 UPS の設定」を参照してください。（）内の数字は設定例です。

項目名	実際の設定項目	設定時間
停電発生から FTvirtual Server のシャットダウン処理開始までの待ち時間	デバイスプロパティの「電源障害」→「電源障害時のシャットダウン開始：」→「UPS のバッテリー状態が次の時間経過後：」	分 (1 分)
FTvirtual Server のシャットダウン処理開始から CoServer のシャットダウン開始までの待ち時間（コマンドファイル実行所要時間）	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「待機時間」	分 (3 分 0 秒)
CoServer シャットダウン開始から、UPS の電力切断までの待ち時間（OS のシャットダウンに必要な時間）	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「期間」	分 (1 分 30 秒)
合計		分 秒 (5 分 30 秒)

■ ネットワーク構成

コンピュータ名は半角英数字で設定します（全角文字は使用できません）。

CoServer Link1、CoServer Link2、仮想 LAN1、仮想 LAN2 は、内部ネットワーク用の設定です。通常は変更する必要はありません。

ただし、外部ネットワークとの競合がある場合は、『ユーザーズガイド』「3.2 ネットワーク機能について」を参照して、設定してください。（）内はデフォルト値です。

項目名	FTvirtual Server	
	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名		
ローカルエリア接続（業務用 LAN）
Virtual Network1（仮想 LAN1）	(192 . 168 . 181 . 81)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network2（仮想 LAN2）	(192 . 168 . 181 . 85)	(255 . 255 . 255 . 252)

項目名	CoServer1 (FT1)		CoServer2 (FT2)	
	IP アドレス	サブネットマスク	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名				
CoServer Management（監視用 LAN）
CoServer Link1	(192 . 168 . 181 . 89)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 90)	(255 . 255 . 255 . 252)
CoServer Link2	(192 . 168 . 181 . 93)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 94)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network（仮想 LAN）	(192 . 168 . 181 . 82)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 86)	(255 . 255 . 255 . 252)

- ・ 設定の際、CoServer 上に業務用 LAN のアダプタが表示されますが、FTvirtual Server が使用するため予約されています。CoServer 上のこれらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしたり、IP アドレス、サブネットマスクを設定しないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは FTvirtual Server 上で設定してください。
- ・ コンピュータ名は半角 14 文字以内で指定してください。全角文字は使用しないでください。

7 電源を入れて、各 OS を開封する

CoServer1、CoServer2、FTvirtual Serverを開封する手順について説明します。
FTvirtual Serverを開封するには、CoServer1と CoServer2の両方が開封されている必要があります。
以下の順番で開封を行ってください。

- (1) FT1 の電源を入れ、CoServer1 を開封します。このとき、FT2 の電源はまだ入れないでください。
- (2) FT2 の電源を入れ、CoServer2 を開封します。開封手順は CoServer1 と同様です。
- (3) CoServer1 と CoServer2 にログインし、FTvirtual Server を開封します。

- ・ CoServer1 と CoServer2 を同時に開封することはできません。FT1 の電源を入れたあと、CoServer1 の開封が終了するまで、FT2 の電源は入れないでください。
- ・ 内蔵ハードディスクを増設した場合、または FTvirtualServer の Cドライブのサイズを変更する場合は、各 OS の開封前に、リカバリ CD を使用してリカバリ操作を行ってください。

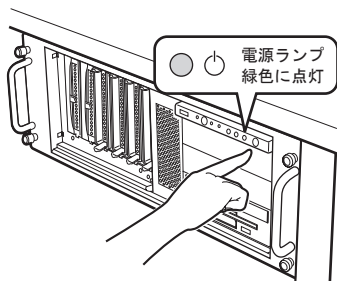
 ユーザーズガイド ▶▶ 「第 7 章 運用と保守 7.6 ご購入時の状態にする（リカバリ）」

■ CoServer1 を開封する

- 1 業務用 LAN と監視用 LAN が、サーバ本体に接続されていないことを確認し、周辺装置の電源を入れます。

UPS を接続している場合は、UPS が正常に電力を供給しているか確認してください。

- 2 FT1 の本体前面の電源スイッチを押します。



電源が入ると、サーバ本体の装置をチェックする「POST (Power On Self Test : パワーオンセルフテスト)」を行います。POST の結果、異常があれば、エラーメッセージが表示されます。

 ユーザーズガイド ▶▶ 「7.3 エラーメッセージ」

POST 終了後、自動的に開封処理が開始されます。

- 3 開封時に、以下の項目を入力します。

各項目の設定値を十分確認し、[次へ] をクリックしてください。

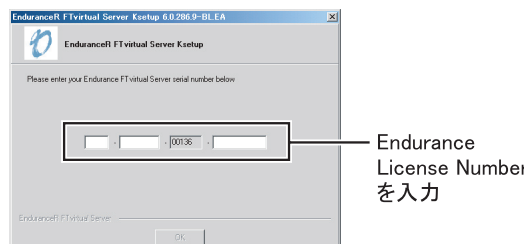
- ・ ソフトウェアの個人用設定（名前・組織名）
- ・ コンピュータ名（半角英数字のみを使用）
- ・ Administrator のパスワード

- ・ CoServer1 と CoServer2 で同一のパスワードに設定すると、デバイスの追加／削除、CoServer Backup ツールの使用が簡単になります。
- ・ パスワードは必ず設定してください。設定しない場合、FT システム内部の通信に問題が発生します。
- ・ [戻る] をクリックしても戻れない場合があります。設定項目を十分確認してから [次へ] をクリックしてください。

セットアップ終了後、サーバが再起動し、Windows OS が起動します。

- 4 CoServer1 にログインします。

以下の画面が表示されたら、「Endurance License Number」を入力し、[OK] をクリックします。



- ・ Endurance License Number は、リカバリ CD 一式に同梱の『ライセンス番号』に記載されています。この番号は CoServer1 と CoServer2 で共通です。
- ・ 環境により、NumLock がロック状態になる場合があります。その場合は、NumLock キーを押してロック状態を解除してから、Endurance License Number を入力してください。

再起動を促すメッセージが表示されます。

5 [はい] をクリックします。

CoServer がシャットダウンし、再起動します。
再起動後に、POST 画面（または「PRIMERGY」のロゴ画面）が表示されます。

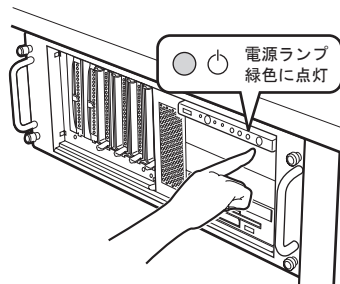
6 サーバの再起動が開始したら、すぐにサーバ本体前面の電源スイッチを押して、電源を切ります。

■ CoServer2 を開封する

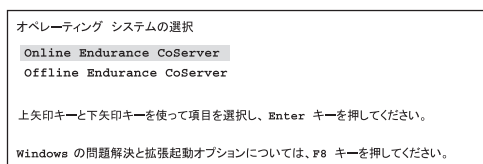
CoServer2の開封手順は、CoServer1と同様です。FT2本体前面の電源ボタンを押して電源を入れてください。以降の操作については前項「■ CoServer1を開封する」を参照して、開封処理を行ってください。

■ FTvirtual Server を開封する

1 FT1、FT2 の電源を入れます。



POST 終了後、OS の選択画面が表示されます。



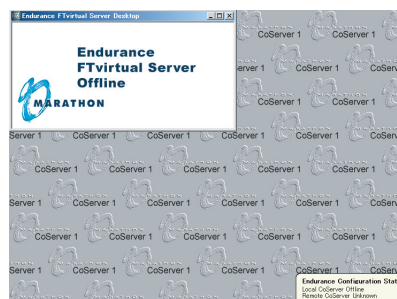
2 「Online Endurance CoServer」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。

ログオン画面が表示されます。

上記操作を行わなかった場合は、一定時間（既定値は30秒）後に「Online Endurance CoServer」として起動します。そのまま次の操作に進んで問題ありません。

3 FT1 で、管理者権限のパスワードを入力して CoServer1 にログオンします。

以下の画面が表示されます。



4 CoServer1 で、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon Endurance」→「Management Tasks」→「FTvirtual Server」→「Start」の順にクリックします。

Windows 2003 セットアップウィザードの開始画面が表示されます。

Endurance FTvirtual Server Desktop の画面には、しばらくの間何も表示されませんが、エラーではありません。そのままお待ちください。

5 [次へ] をクリックします。

セットアップが開始されます。セットアップ中に以下の項目を入力します。それ以外の項目は任意で入力してください。各項目の設定値は十分確認した上で [次へ] をクリックしてください。

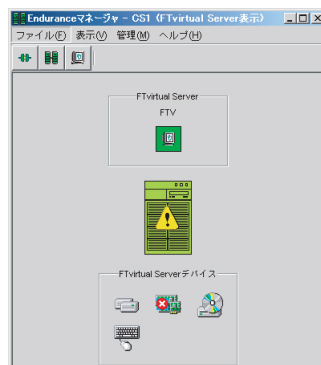
- ・ライセンス契約の同意
- ・ソフトウェアの個人用設定（名前・組織名）
- ・コンピュータ名（半角英数字のみを使用）
- ・Administrator のパスワード

セットアップが完了すると、FTvirtual Server が再起動し、ログオン画面が表示されます。

6 FTvirtual Server にログオンします。

7 Endurance Manager を起動します。

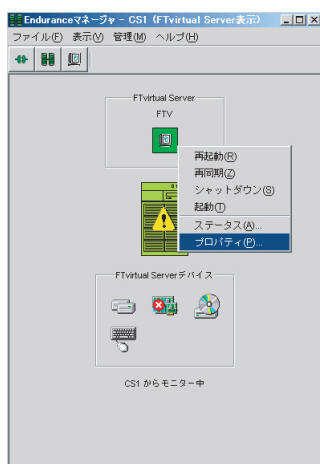
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon Endurance」→「Manager」の順にクリックして、Endurance Manager を起動します。



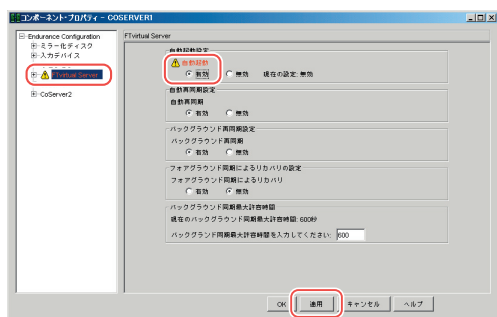
業務用 LAN ケーブルが HUB などと接続されてない状態では、上図のようにエラー表示になりますが、異常ではありません。このまま作業を続けてください。

8 FTvirtual Server アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

「コンポーネント・プロパティ」画面が表示されます。



9 左側のツリーから、「FTvirtual Server」を選択し、「自動起動設定」の「有効」をチェックして、「適用」をクリックします。



赤字の警告メッセージがプロパティ画面上に表示されますが、プロパティ値を変更したことを示しており、動作上問題ありません。

10 [OK] をクリックして「コンポーネント・プロパティ」画面を閉じ、Endurance Managerを終了します。

11 以下のアダプタに IP アドレスを設定します。

あらかじめ DHCP で IP アドレスを自動取得する設定になっていますので、そのままが良い場合は、この手順は必要ありません。

- ・ CoServer1 の「CoServer Management」
- ・ CoServer2 の「CoServer Management」
- ・ FTvirtual Server の「ローカルエリア接続」

CoServer1 および CoServer2 の「Redirected0」は、FTvirtual Server が使用するため予約されています。これらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは FTvirtual Server 上で設定してください。

12 OS 開封前にオプション装置を追加した場合は、以下を参照し、増設後の操作を行ってください。

- ・ 5 インチ内蔵バックアップ装置を追加した場合

ユーザーズガイド ▶ 「5.8.4 内蔵バックアップ装置取り付け後の操作」

- ・ 外付けバックアップ装置を追加した場合

ユーザーズガイド ▶ 「5.9 外付けバックアップ装置の接続」

8 電源を切る

FTvirtual Server画面で、以下の手順でシャットダウンを行ってください。

1 [スタート] ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon Endurance」→「Management Tasks」→「Endurance Configuration」→「Shutdown」の順にクリックします。

シャットダウンを確認するダイアログボックスが表示されます。

2 「OK」をクリックします。

FTvirtual Server のシャットダウン後、続いて CoServer1、CoServer2 がシャットダウンし、自動的に電源が切れます。



故障

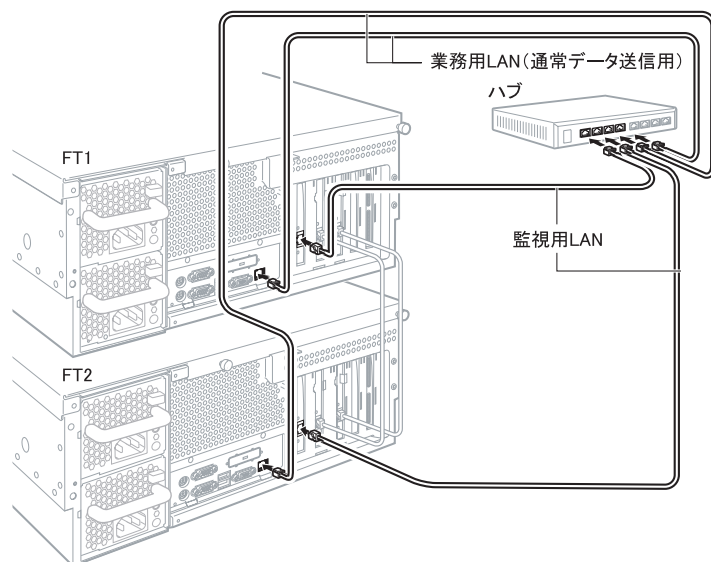
電源を切ったあと、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

9 残りの LAN ケーブルを接続する

サーバの電源切断後、以下のとおり残りの LAN ケーブルを接続してください。

FT システムでは、業務用（通常データ送信用）、CoServer Link、監視用のすべての LAN を使用して制御を行いますので、監視用 LAN ケーブルも忘れずにハブ等に接続してください。

● LAN ケーブルの接続



10 運用前の設定を行う

OSの開封後、以下を参照して FT システムを運用するための設定を行ってください。

🕒 **ユーザズガイド** ➡ 「第 3 章 運用前の設定」

🕒 **ユーザズガイド** ➡ 「4.3.4 運用前のサーバ監視ソフトウェアの設定について」

UPSをご使用になる場合は、UPSの設定を行ってください。

🕒 **ユーザズガイド** ➡ 「3.4 UPS の設定」

運用開始後の保守については、『ユーザズガイド 第 7 章 運用と保守』を参照して内容をご確認ください。

11 お客様登録

お客様登録を行っていただくことにより、お客様への保守サービスが円滑に実施されます。
本サーバは、2台で 1つのシステムのため、必ず 2台分の登録を行ってください。

お客様登録の方法は、本サーバに添付の保証書に記載されています。登録方法には、以下の 3つがあります。

- ・レジストレーション登録（リモート接続による登録）
- ・Web 登録（<http://www.fujitsu-osc.ne.jp/regist/>）
- ・Fax 登録

お客様登録をされた場合と、されない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- ・お客様登録をされた場合…ご購入後 1 年間
- ・お客様登録をされない場合…ご購入後 3 か月

「SupportDesk 保証アップグレードパック」または、「SupportDesk パック」を別途ご購入された場合は、ご購入されたパック製品のお客様登録を必ず行ってください。詳細は、ご購入されたパック製品に添付されている「ご登録の手引き」をお読みください。パック製品のお客様登録を行った場合、上記のお客様登録は必要ありません。

12 サポート&サービス

● PRIMERGY 情報の提供について

PRIMERGYの最新情報、ドライバ、ソフトウェアについて、以下でご提供しています。必要に応じてご利用ください。

<http://www.fmworld.net/biz/primergy/>

● AzbyEnterprise について（無償）

最新情報を電子メールでお届けする「AzbyEnterpriseメール配信サービス」をご提供しています。

富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NETのビジネスユーザー向け情報ページ(<http://www.fmworld.net/biz/>) から入会できます。

● SupportDesk について（有償）

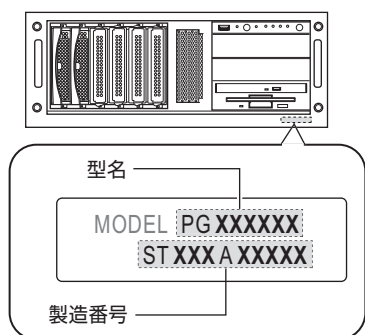
システムの安定稼働に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」の契約をお勧めします。ご契約いただくと、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆／異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア／ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが利用できます。

詳細は、SupportDesk紹介ページ「製品サポート」(<http://segroup.fujitsu.com/fs/>) を参照してください。

● 修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『ユーザーズガイド 7.2 トラブルシューティング』を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

ご連絡の際は、サーバ本体の下記に貼付のラベルにて、型名および製造番号をご確認し、お伝えください。



また、事前に『ユーザーズガイド 7.9.2 保守員に連絡するときは』をご覧ください、修理ご依頼前の確認事項について、ご確認をお願いします。

ご確認いただいた内容は、『環境設定シート』の「障害連絡シート」を印刷し、記入しておいてください。

お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用しますので、担当保守員へお渡しください。

● 保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。

なお、保守サポート期間は、お客様のサーバ購入後 5 年間です。

● 定期交換部品について

お客様の使用環境や使用時間により、保守サポート期間内に交換が必要になる定期交換部品があります。導入時より SupportDesk、またはハードウェア保守契約の定期保守契約を結ばれたお客様においては、定期交換部品の交換費用(交換部品代および交換作業代)はサービスに含まれており、優先的に交換いたします。

SupportDesk契約が未契約、ハードウェア保守契約が定額訪問契約または未契約の場合は、別途ご請求させていただきます。システムの安定稼働のためにも、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。

・ 定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35℃ ですが、交換時期は平均使用温度 25℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

・ 交換時期の表示

RAS 支援サービスにより、部品の交換を促すメッセージをサーバのパネルやコンソールに表示させることができます。メッセージは、次回定期保守時に交換を促す目安を示しております。定期交換部品は、交換時期メッセージの通知後、約 1 年間は使用可能です。

ただし、UPS バッテリについての交換時期メッセージが通知された場合は、すみやかに保守サービス窓口にご連絡ください。

・ 定期交換部品の種類

部品名	説明
SCSI アレイコントローラカードのバッテリー	電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年間を経過すると交換を促すメッセージが表示されます。
高機能無停電電源装置 (UPS) のバッテリー	電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換を促すメッセージが表示されますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、UPS の取扱説明書をご覧ください。

13 リサイクルについて

本サーバを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

注意事項

<p>データのバックアップについて</p> <p>本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。</p>
<p>注意</p> <p>この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。</p>
<p>本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。</p>
<p>本製品のハイセイフティ用途での使用について</p> <p>本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。</p>
<p>本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）</p>
<p>当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。</p>
<p>高調波ガイドライン適合品</p>
<p>使用許諾契約書</p> <p>富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。</p> <p>なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。</p> <p>ソフトウェアの使用条件</p> <p>1. 本ソフトウェアの使用および著作権 お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。</p> <p>2. バックアップ お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。</p> <p>3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み 本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。</p> <p>4. 複製 (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。 本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。 ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。 (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。</p> <p>5. 第三者への譲渡 お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。</p> <p>6. 改造等 お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。</p> <p>7. 保証の範囲 (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。 また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。 (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。 (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。</p> <p>8. ハイセイフティ 本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など</p>
<p style="text-align: right;">富士通株式会社</p>

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。